

# 大分の史跡—横尾貝塚—

よこおかいづか おとづがわ  
横尾貝塚は、乙津川の河口近くの左岸にあり、地元の人々に「かきからてんじん」や「かいがらてんじん」などと呼ばれて大切に守られてきた縄文時代の貝塚です。発掘調査によって、シジミやハマグリとともに土器や石器、<sup>ちよぞうけつ</sup>ドンダリの貯蔵穴など縄文人の生活を物語るさまざまなものが発見され、日本を代表する縄文時代の遺跡として平成21年に国の史跡に指定されました。



発見された黒曜石とかご

## かごに収められた姫島の黒曜石

乳白色を特徴とする姫島産の<sup>こくようせき</sup>黒曜石が、かごに収められた状態で大量に見つかりました。黒曜石はガラス質の石で、加工しやすく、割れ口が鋭くはがれるため、当時はやじりなどに使われていました。これらの石は、<sup>くにさきはんとら</sup>国東半島の沖合いの<sup>ひめしま</sup>姫島から舟で運ばれたと考えられ、縄文人たちの<sup>こうえき</sup>交易の<sup>きちょう</sup>拡がりを知る貴重な手がかりとなりました。

また、このかごの発見は、縄文人が土器や石器とともに、編み物製品を作っていたことを裏付けるものとなりました。その後の研究から、縄文人は柔らかい植物を素材に選び、それをさらに加工し、編み方を規則的に変えて解けにくくするなど、現代の私たち以上の技術でかごを作製していたことがわかってきました。



横尾貝塚出土のかご復元想定品



横尾貝塚周辺地図



新しくなった「かきから天神社」

## 4000年前のドンダリ貯蔵穴



貯蔵穴発掘の様子

縄文人にとって秋に採<sup>と</sup>れるドンダリは、重要な食料の1つでした。彼らは、水がわく谷部に穴を掘って、温度がほぼ一定の新鮮な水を確保しながらドンダリを貯蔵していました。